

表題

— 副題 —

著者名

はじめに

京都市左京区には吉田村（よしだむら）という村がある（地図 1）。この村は古来より宇宙からの使者が降り立つことで知られている¹⁾。1914(大正 3) 年からは宇宙開発庁の管轄となった。

このような吉田村の言い伝えを分析することで、この村の人々が宇宙人に対してどのように接するべきと考えたのかということ进行分析したい。

地図 1：吉田村の位置図



出典：吉田村『村制施行 200 年記念要覧』資料編 (1900 年) 2 頁。

I 先行研究の整理

1. 宇宙人に関する先行研究

宇宙人の来訪に関する代表的な先行研究として、まずヴァネヴァー・マッシュ『未確認飛行物体の研究』（マサチューセッツ大学出版会、1940 年）をあげたい。マッシュは、第二次世界大戦中の米国における地球外生物の存在について、特に「来訪場所」に注目して分析している。

二十世紀研究

この先行研究で用いられている代表的史料は、① 日記・回想記 ② 警察史料 ③ 飛行物体報告書の3種類である。①は「個人が書いたもの」という限界を如何に超えるかという課題がある。

2. 先駆的な宇宙人類学としての意義

航空歴史民俗博物館の共同研究²⁾では、マッシュの研究は後の宇宙人類学の先駆となる研究と位置付けられており、同時代においては不遇であったが大いに意義あるものと考えられている。

II 日記分析

1. 初期の未確認飛行物体の記録

初期のカリフォルニアでの記録には

赤い光が山の方向から平野に向かって飛んできた（中略）

あつという間のことだったが村人4人が異口同音に同じ時間に光をみたと証言している³⁾

と書かれている。

III 警察史料分析

1. オハイオ州の巨大隕石跡での目撃例

なんてこともあったかもしれない（別表1）。

2. アラスカ州の流星群最大接近時の目撃例

こんなこともあったかもしれない。

1928年には「鷗飛行物体の会名簿」が作成された

おわりに

先行研究で扱われた史料の真偽については、他史料と比較し今後慎重に検証していく必要がある。

註

- 1) 木村大事『宇宙の人類学』（兄弟出版会、1999年）441-444頁を参照。
- 2) 航空歴史博物館編『宇宙人遭遇記録の変遷』（航空歴史博物館出版局、1972年）85-6頁。
- 3) 同上、265頁。

（〇〇大学文学部教授）

【付記】 この研究には〇〇財団基金の援助を得た（助成番号 12345678）

	A	B	C	D	E	F
発見者						
記録媒体						
写真の有無						
警察管区						

別表 1：飛行物体の発見年表